

沖縄県内文化施設における障害者アクセシビリティ・芸術文化活動に関するアンケート調査集計報告

～ 県内26文化施設のバリアフリー現状、障害者受け入れの課題、および支援センターへの期待 ～

【調査の目的と位置づけ】

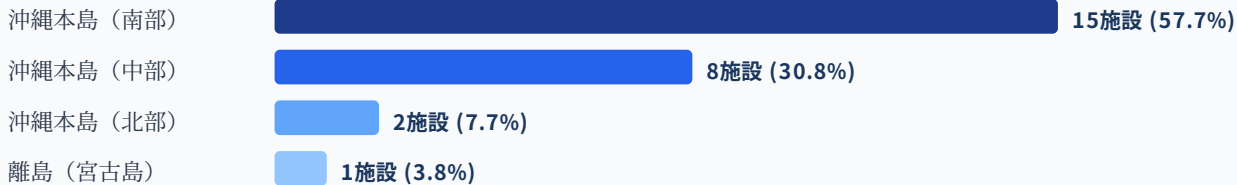
本調査は、沖縄県障害者芸術文化活動支援センター ricca（りっか）が、県内文化施設（ホール、美術館、博物館、複合文化施設等）における障害のある人たちの鑑賞環境・芸術活動の受入現状を把握し、今後の伴走支援や環境整備に役立てることを目的に実施したものです（有効回答：26施設）。特定事業所名が特定されない形で集計・分析を行っています。

26 施設 調査対象・回答施設数 沖縄県内文化施設	100 % 障害者用トイレ設置率 全26施設で完備	80.8 % 専門ノウハウ不足の課題 21施設で受入不安	57.7 % riccaの研修期待率 15施設が研修希望
--	--	---	---

1. 調査概要と回答施設の特徴

回答のあった26施設の内訳は、本島南部地区が15施設（57.7%）と半数以上を占め、次いで本島中部地区が8施設（30.8%）、本島北部地区が2施設（7.7%）、離島地域（宮古島）が1施設（3.8%）となっています。施設の形態としては、大ホール・劇場を備えた舞台芸術施設、美術館・博物館、総合文化センター、公園管理施設など多岐にわたります。

図1: 回答施設の地域別内訳 (N=26)



2. 施設・設備のバリアフリー対応現状

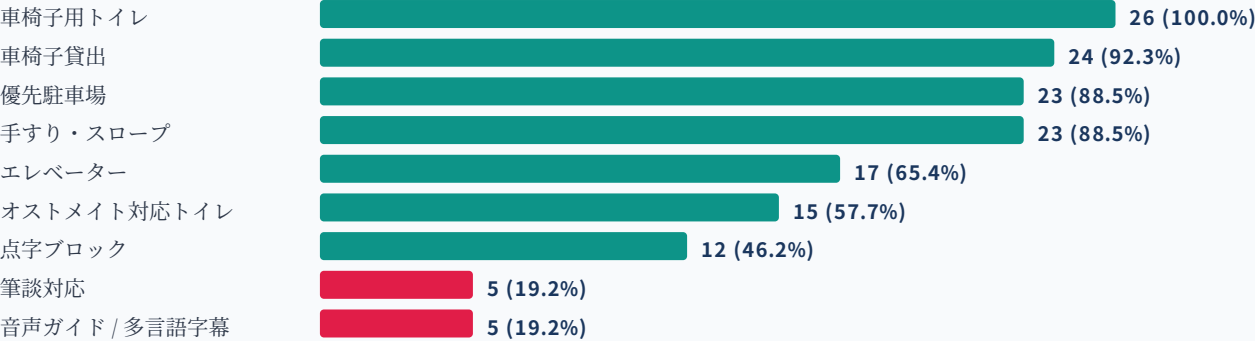
ハード面でのバリアフリー設備については、車椅子対応トイレ（100%）、車椅子貸出（92.3%）、優先駐車場（88.5%）、スロープ・手すり（88.5%）など、基本的な物理的バリアフリー設備は多くの施設で整っています。一方で、オストメイト対応トイレ（57.7%）や点字ブロック（46.2%）の整備率にはばらつきが見られます。

バリアフリー設備・機能	回答施設数	割合 (N=26)	現状・課題の概要
車椅子対応トイレ	26 施設	100.0 %	全回答施設で設置完了
車椅子貸出サービス	24 施設	92.3 %	館内備品として常備
障害者優先駐車場	23 施設	88.5 %	敷地内または近隣に確保
エレベーター設置	17 施設	65.4 %	多層階施設で導入（平屋除く）
オストメイト対応トイレ	15 施設	57.7 %	新設・改修施設中心に導入
点字ブロック設置	12 施設	46.2 %	エントランス～受付周辺が中心
筆談によるコミュニケーション対応	5 施設	19.2 %	窓口での個別対応表示・準備
音声ガイド・字幕等鑑賞サポート	5 施設	19.2 %	一部企画展示・公演で実施

表1: 主要バリアフリー設備・鑑賞サポートの対応状況一覧

さらに、ソフト面での鑑賞サポート（筆談対応19.2%、音声ガイド19.2%、多言語字幕・映像字幕11.5%）や、情報バリアフリー（点字フロア図11.5%、コミュニケーションボード11.5%）については実施率が2割未満にとどまっており、情報伝達やコミュニケーションにおけるサポート体制の構築が今後の主要課題です。

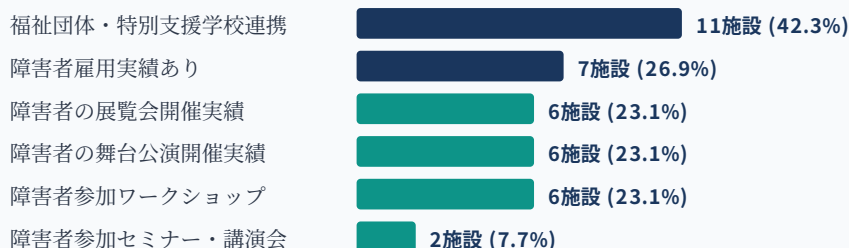
図2: 主要バリアフリー設備・鑑賞サポートの導入率 (N=26, 複数回答)



3. 障害のある方の芸術文化活動・地域連携の実績

これまでに障害のある人が関わる事業（展覧会・舞台公演・ワークショップ・セミナー等）を開催した実績について調査したところ、展覧会（23.1%）、舞台公演（23.1%）、ワークショップ（23.1%）のそれぞれで全体の約2割強の施設が開催経験を有しています。

図3: 障害のある方の芸術文化活動プログラム実績・連携 (N=26)



地域福祉団体や特別支援学校との連携については、42.3%（11施設）が「連携実績あり」と回答しており、学校出前授業や福祉施設作品展などの取組が行われています。また、障害者雇用を実施している施設は26.9%（7施設）でした。

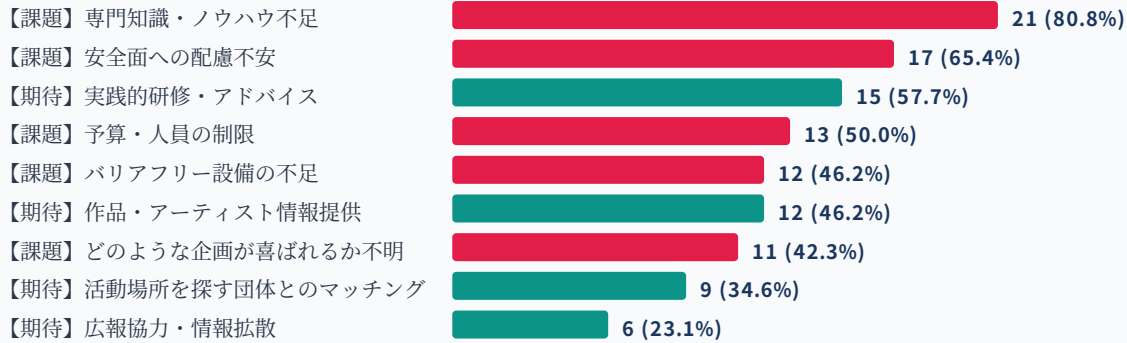
【自由記述に見る特徴的な取組事例（匿名化抽象化要約）】

- ・視覚障害者向け美術鑑賞プログラム：企画展等において、触察（作品に触れて鑑賞する）作品の展示や盲学校向け出前プログラム、映画のトークセッションを実施。
- ・共生型ダンス・音楽プログラム：健常者と聴覚障害者がともに参加するダンス公演や、ダウン症児ダンススクール発表会、車椅子リードユーザー向けWSの開催。
- ・多様なコミュニケーション対応：発話が困難な来館者に対して五十音表や指差しコミュニケーションで丁寧に対応。
- ・ハード制限下のソフト工夫：歴史的建造物・史跡等でバリアフリー対応が困難な場合、館内デジタルコンテンツ（AR等）を活用した代替鑑賞の提案。

4. 障害者受け入れにおける課題・不安と「ricca」への期待

障害のある方を受け入れるにあたって施設側が感じている課題や不安（複数回答）では、「専門的な知識やノウハウがない」（80.8%）が突出して高く、次いで「安全面への配慮」（65.4%）、「予算や人員が限られている」（50.0%）、「バリアフリー設備の不足」（46.2%）、「どのような企画が喜ばれるか分からない」（42.3%）が続いています。

図4: 施設が抱える受入課題（赤） vs riccaに期待する支援機能（緑）（N=26）



支援センターriccaの認知度については、「知らない」が61.5%を占め、「名前を聞いたことがある」が23.1%、「知っている」が15.4%でした。今後riccaに期待する支援内容としては、「障害者と協働する際の留意点に関する研修やアドバイス」（57.7%）が最も高く、ノウハウ不足に対する具体的指導へのニーズが強く示されています。また、今後の連携意向として、企画展・発表会への会場提供（50.0%）やワークショップ共催（34.6%）など前向きな回答が多く得られました。

5. 支援センターriccaにおける今後の支援方向性（まとめ）

【今後の支援アクションプラン】

- ① 現場ニーズに即した「接遇・介助・鑑賞サポート研修」の開催：8割の施設が感じる知識不足を解消するため、文化施設スタッフ向けの具体的な接遇や安全管理、筆談・情報伝達に関する実践的研修プログラムを提供します。
- ② 文化施設と障害者芸術団体・アーティストのマッチング支援：会場提供の意向を持つ施設（50%）と、活動場所を探す障害者団体をスムーズにつなぐコーディネート機能を強化します。
- ③ 障害者芸術文化活動に関する情報発信とノウハウの共有：
アーティスト情報や先進的な鑑賞サポート事例、配慮事項のチェックリスト等をWebサイト等で広く提供します。

【お問い合わせ・ご相談窓口】

沖縄県障害者芸術文化活動支援センター ricca（りっか）
Webサイト：<https://ricca-okinawa.jp/>